

■第1章の構成と各章との関連性について

第1章の構成と序章、第2章以降の関連性を以下に示します。

序章 これからの茨木の都市づくりについて

3 これからの都市づくりの視点

第1章 市民と共に創るまちの姿（将来ビジョン）

1 市民と共に創るまちの姿

(1) 基本理念

- “考える”から“共に創る”「共創のまちづくり」

(2) 暮らしのイメージ

- イメージ1（山の暮らし）
- イメージ2（山とまちをつなぐハブ拠点）
- イメージ3（まちなか）
- イメージ4（まちの暮らし）
- イメージ5（交通）
- イメージ6（人）

2 都市づくり戦略

戦略1 山とまちを活かす・つなぐ

- 山を活かす
- まちを活かす
- 山とまちをつなぐ

戦略2 拠点と生活圏の維持・充実により暮らしの質を高める

- 拠点と生活圏の維持・充実
- 交通ネットワークの充実・強化

戦略3 魅力的な場と多様な活動により景色を創る

- 活動が景色となるまちづくりの進め方

戦略4 産官学民の多様な主体との連携によりまちを創る

- 市民と共に創るまちの姿の実現に向けた各主体の役割

第2章 全体構想

第3章 地域別構想

第4章 共創のまちづくりの進め方

第1章

市民と共に創るまちの姿

(将来ビジョン)

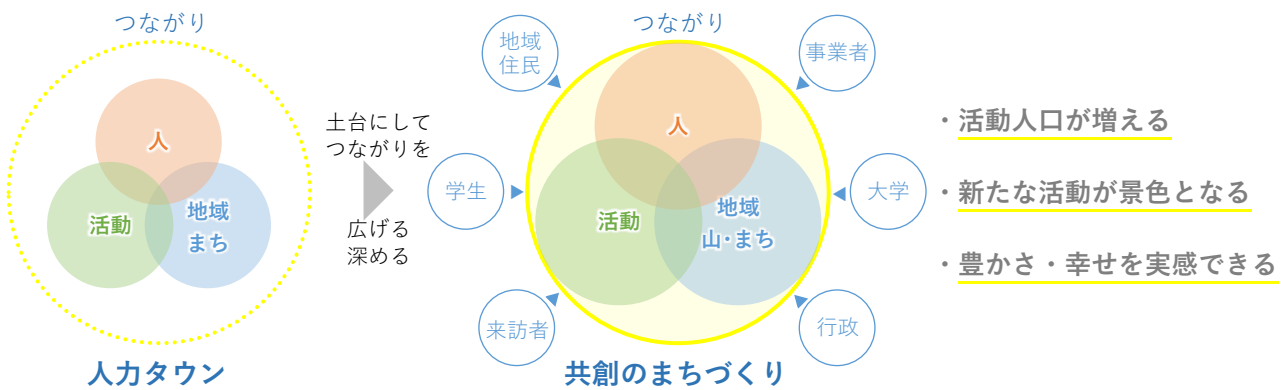
1 市民と共に創るまちの姿

（1）基本理念 ～“考える”から“共に創る”「共創のまちづくり」～

第3次都市計画マスタープランでは、人・地域活動・まちとの「つながり」をつくることを大切に考え、市民一人一人の力を高め、知恵を集め、「人の力」を最大限に発揮できるようなまちを目指して、“「人持ち」でつながる「人力（じんりき）タウン」茨木”をキャッチフレーズに、13の「市民が考えるまちの姿」を掲げ、市民と共に考え、協働を重視したまちづくりを進めてきました。

この考えを土台として、人・活動・地域（山・まち）のつながりを更に広げ・深めることで、市民と“考える”から“共に創る”「共創のまちづくり」へと発展させ、まちづくりの基本理念として設定します。

また、序章で整理したこれからの都市づくりの視点によるキーワードと関連付けることにより、「市民と共に創るまちの姿（暮らしのイメージ）」として具現化し、この将来ビジョンに沿った都市づくりを目指していきます。



市民が考えるまちの姿 + これからの都市づくりの視点によるキーワード

- | | |
|---|--|
| <p>①人が育ち、人を育てるまち</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域住民と育む ・まちづくり組織 ・担い手の発掘・育成 ・大学生が多い <p>②挨拶があふれるまち</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティ醸成 ・ソーシャル・キャピタル <p>③「人持ちになろう」が合言葉のまち</p> <ul style="list-style-type: none"> ・関係人口の増加 ・活動人口の増加 <p>④たのしく散歩ができるまち</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ウォーカブル ・回遊性向上 <p>⑤夢に向かってチャレンジができるまち</p> <ul style="list-style-type: none"> ・おにクル ・大学との連携 <p>⑥いろいろなくらしができるまち</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活圏の形成 ・二地域居住 ・デジタル技術の活用 ・カーボンニュートラル ・サードプレイス <p>⑦なりわいを大切にするまち</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業者との連携 ・地域貢献 ・エリアマネジメント <p>⑧地元で循環するまち</p> <ul style="list-style-type: none"> ・循環経済 | <p>⑨茨木のエエもんを育むまち</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ひと・プロセス重視 ・地域資源の利活用 ・文化芸術のまちづくり ・観光・交流拠点づくり <p>⑩身近な自然を守り、使い、育てるまち</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ダムパークいばきた ・みどりのネットワーク ・自然との共生 ・カーボンニュートラル ・生物多様性の保全 ・グリーンインフラ <p>⑪人に優しい交通システムを取り入れるまち</p> <ul style="list-style-type: none"> ・交通環境の維持 ・MaaS（マース） ・モビリティマネジメント ・シェアモビリティ・シェアライド ・自転車の利活用 ・車中心からひとと中心へ <p>⑫今あるものを工夫して活かすまち</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会実験 ・公共空間の利活用 ・リノベーション <p>⑬もしもの時の備えができているまち</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安全・安心 ・地域防災力 ・自助・共助・公助 ・レジリエンス ・事前復興 <p>（共通するキーワード）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ウェルビーイング |
|---|--|

具現化

市民と共に創るまちの姿（暮らしのイメージ）

～山とまちが調和した、魅力的で過ごしやすく暮らしやすいまち～

（2）暮らしのイメージ

立地適正化計画では、「本市が目指す暮らしやすさのイメージ」を掲げ、“暮らし続けたい・暮らししてみたいまちの実現に向けて”をキャッチフレーズに都市づくりを進めてきました。

今回の改定では、基本理念を踏まえ、立地適正化計画による暮らしやすさのイメージ（まちなか・まちの暮らし・交通・人）に山の特性を活かした内容（山の暮らし・山とまちをつなぐハブ拠点）を追加し、「暮らしのイメージ」として設定します。



イメージ1 地域内外の人が関わりながら、里地里山の豊かな資源が大切にされている

- ・北部地域では、これまで培ってきた生業や地域のつながりを背景にしながら、里地里山の豊かな資源が、地域内外の人の関わりにより維持され、大切にされています。
- ・また、北部地域の魅力に関心をもつ若者や地域外の人により、新規就農や伝統農業の継業、地域資源を活かした産業や生業づくりなど、新たな活動が生まれています。
- ・さらに、既存ストックや自然、文化資源などの地域資源を活かした新たな魅力づくりを進めることで、地域に関わる人・活動する人が増え、地域の暮らしが維持されています。



キーワード

- 地域資源の利活用
- 自然との共生
- サーキュラーエコノミー
- 生物多様性の保全

イメージ2 山とまちとの往来をきっかけに、さまざまな活動や交流が生まれている

- ・ダムパークいばきたでは、まちで暮らす人や来訪者が、山に訪れる機会が増えることで、地域への関心が高まり、さまざまな活動が行われるなど、山の魅力が広がっています。
- ・山で暮らす人と関わる人が増えることで、新たな活動や交流が生まれ、山とまちのつながりが生まれています。



キーワード

- ダムパークいばきた
- 観光・交流拠点づくり
- 関係人口の増加
- 活動人口の増加
- みどりのネットワーク
- グリーンインフラ
- 二地域居住

イメージ3 茨木らしいまちの楽しみ方や使い方ができ、思い思いに過ごすことができる

- ・おにクルでは、多様な主体が出会い、思い思いの「活動」が日常的に繰り広げられ、活動が「景色」となっています。
- ・そうした活動の景色や賑わいがまちなかにも広がり、公園や沿道、駅前などの公共空間を活用した多様な「場」で、まちなかを楽しみ、使いこなす人が増え、「ひと中心の居心地が良いまちなか」となっています。
- ・このような多様な主体との関わり、活動・体験を共有し、その積み重ねにより共感が生まれ、社会的なつながりによる豊かさや幸せが実感できるまちなかとなっています。



キーワード

- おにクル
- 社会実験
- 公共空間の利活用
- 回遊性向上
- ウェルビーイング
- 車中心からひと中心へ
- サードプレイス
- ウォークアブル

イメージ4 生活に必要なものが身近にあり、日常を豊かで便利に過ごすことができる

- ・居住地域では、歩いて行ける範囲に子育て・教育・医療福祉・商業などの生活利便施設が立地していて、便利で暮らしやすい生活ができます。
- ・また、災害への備えがしっかりしていて、安全・安心に暮らすことができます。
- ・公園などみどりが身近にあり、さまざまなライフスタイルに対応した暮らしができます。



キーワード	● 生活圏の形成	● 安全・安心
	● レジリエンス	● 事前復興
	● デジタル技術の活用	● リノベーション
	● カーボンニュートラル	

イメージ5 多様な交通手段によるネットワークがあり、地域内外を便利に移動できる

- ・居住地域では、公共交通網により、居住地域内を移動することができ、大阪や京都へも便利に移動できます。
- ・北部地域では、地域主体の交通手段の導入が進み、公共交通との連携により、移動手段が確保されています。



キーワード	● 交通環境の維持	● M a a s（マース）
	● シェアモビリティ・ライドシェア	
	● モビリティマネジメント	● 自転車の利活用

イメージ6 多様な人とのつながりがあり、多様なコミュニティが育まれている

- ・地域住民が地域のコミュニティ活動やまちづくり活動に主体的に関わりを持ち、人とのつながりや連携が大切にされ、まちへの愛着につながっています。
- ・大学や事業者などの多様な主体がまちづくりに関わり、地域住民と共に、より良い地域づくりが進められています。



キーワード	● 地域住民と育む	● まちづくり組織
	● ひと・プロセス重視	● 大学生が多い
	● 大学との連携	● 事業者との連携
	● 地域貢献	● エリアマネジメント
	● 文化芸術のまちづくり	● 担い手の発掘・育成
	● 地域防災力	● 自助・共助・公助
	● コミュニティ醸成	● ソーシャル・キャピタル

2 都市づくり戦略

市民と共に創るまちの姿の実現に向け、分野横断かつ重点的に都市づくりを進めていくため、「都市づくり戦略」を設定します。

（ は、44～53 ページに示す第2章「分野別の都市づくりの方針」、70～72 ページに示す第4章「共創のまちづくりの進め方」に対応しています）

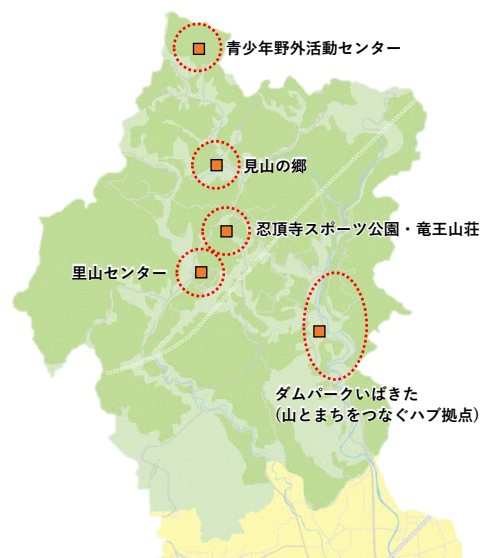
戦略1 山とまちを活かす・つなぐ

山とまちの特性・魅力を活かした都市づくりを進め、更につなぐことで都市全体への波及効果・相乗効果を生み出します。

戦略1-1 山を活かす

● 来訪者と地域住民の交流を促進するための拠点づくり

- ・安威川ダム周辺に整備した「ダムパークいばきた」は、ダム湖を活かした観光も含めたスポーツ・レクリエーション施設の整備を進め、山で暮らす人と来訪者による交流や活動が生まれ、“人と人、活動をつなぎ、新たな価値を創造する”「山とまちをつなぐハブ拠点」としての役割を担います。
- ・北部地域にある忍頂寺スポーツ公園・竜王山荘や里山センター、見山の郷などの既存ストックを活用し、山で暮らす人と来訪者との交流を促進するための拠点づくりを進めます。
- ・農林業従事者の担い手確保に向け、観光農園や農村レストランなど産業の6次産業化といった市民と農業者が交流できる機会の創出を図っていきます。



ダムパークいばきた



見山の郷



忍頂寺スポーツ公園・竜王山荘

都市施設・市街地整備

● 既存ストック等の活用に向けた開発許可制度の運用の円滑化・柔軟化

- ・北部地域にある空家などを地域資源と捉え、地域の魅力向上や既存集落のコミュニティの活力維持のために活用していくため、「既存建築物の用途変更ガイドライン」などに基づく開発許可制度の弾力的な運用を進めていくとともに、地域課題の解決に向けた地域づくりを行っています。

土地利用 | 居住環境

● 2コア1パーク&モールの都市構造を活かした、ひと中心のまちなづくり

- ・市の中心部には、人々が集まり、広域の交通アクセスを担う2つの駅「2コア」が東西に位置し、それらを結ぶ2つの通り「モール」があり、その中間地点には、大きな公園や緑地帯「1パーク」があります。
- ・2つの駅間が広く、中間にゆとりあるみどりの空間があることで、歩きやすく、過ごしやすい魅力的なエリアになるポテンシャルがあります。
- ・このポテンシャルのある都市構造を「2コア1パーク&モール」と捉え、面的な視点で捉えて必要な都市機能を誘導し、相乗効果のあるまちづくりを推進していきます。
- ・おにクルの開館で見られるようになった、多様な人々が大小さまざまな「場」で、くつろいだり、チャレンジしたり、出会ったりと、思い思いの「活動」が日常的に繰り広げられるような「景色」が生まれる「ひと中心の居心地が良いまちなか」への共感を広げていきます。



「2コア1パーク&モール」の都市構造

土地利用 | 都市施設・市街地整備

● 駅前ならではの質の高い都市機能の誘導（2コア）

- ・JR茨木駅と阪急茨木市駅の周辺エリアでは、市民のニーズや生活利便に應える多様な施設機能を組み込むことで、駅利用者のほか、市民の定期的な来訪の増加を図るとともに、交通や商業などの機能性だけでなく、安全で居心地のよいひと中心の空間づくりを行っていくことで、周辺エリアの魅力と回遊性を高めていきます。
- ・阪急茨木市駅周辺においては、地域の中核的な役割を担う病院の確保に向けた取組を推進していきます。

都市施設・市街地整備 | 交通体系 | 都市防災



JR茨木駅（えきまえマルシェ）



阪急茨木市駅（音楽イベント）

● 既存ストックや公共空間活用による魅力ある都市空間の創出（1パーク）

- ・市の中心部に公共空間を集積した「パーク」では、おにクルと広場の活用とともに、中央へと歩いて訪れる目的をつくることで、恒常的な賑わい創出を図っていきます。
- ・また、ワークショップや社会実験などを通じて培われてきた、多様な主体の活動やネットワークを推進力として、エリア全体の活性化につなげていきます。
- ・豊かな緑や桜並木がありゆったり散策できる元茨木川緑地は、老木の増加や施設の老朽化が進みつつあるため、市の緑の骨格軸として市民ニーズを踏まえた再生を目指し、市民参加のもと「元茨木川緑地・デザイン」を推進していきます。



おにクル（開館イベント）



元茨木川緑地

都市施設・市街地整備 | 交通体系 | みどり・都市環境

● 2つのコアを結ぶ歩きやすく、歩きたくなる空間デザインのストリートの創出（モール）

- ・ 中心市街地の東西軸となる2つの通り（中央通り・東西通り）は、歩道が狭く、歩行者と自転車が輻輳するなど車中心の道路となっているのが現状です。この通りを歩きやすく、歩きたくなる空間デザインのストリートとしていくことで、商店街をはじめとする商業空間や公共施設との連続性を形成していきます。

都市施設・市街地整備 | 交通体系 | 景観形成



2040年頃の中央通りのイメージ



2040年頃の東西通りのイメージ

戦略1-3 山とまちをつなぐ

● 地域資源のネットワーク化による自然と共生する都市づくりの推進（みどりをつなぐ）

- ・ 北部地域の豊かな緑や安威川、元茨木川緑地、公園などのみどりのネットワーク化により、本市の魅力向上や生物多様性の保全など、人と自然が共生する都市づくりを推進していきます。
- ・ 自然環境が有する多様な機能（防災・減災、生物多様性の保全、良好な景観形成等）を活用し、持続可能で魅力ある都市づくり・地域づくりを推進していきます。

都市施設・市街地整備 | 都市防災 | みどり・都市環境 | 景観形成

● 山とまちの移動を支える交通ネットワークの機能充実（みちをつなぐ）

- ・ 公共交通や自転車などの多様な移動手段の確保や、災害時の移動経路の確保などにより、山とまちをつなぐ交通ネットワーク機能の充実を図っていきます。

土地利用 | 都市施設・市街地整備 | 交通体系

● 山とまちのつながりや賑わいを広げる取組の推進（人・活動をつなぐ）

- ・ 多種多様な活動が見られる「おにクル」と豊かな自然を活かした「ダムパークいばきた」を拠点に、人々の往来や活動を促し、つながりと賑わいを広げていきます。

共創のまちづくりの進め方



戦略2 拠点と生活圏の維持・充実により暮らしの質を高める

本市の居住環境を支える「拠点とネットワーク」の維持・充実を図るとともに、暮らしに直結する住まい近傍の「生活圏」での暮らしの質の向上につなげていきます。

戦略2-1 拠点と生活圏の維持・充実

● 地域拠点での公共交通軸と連携した拠点機能の維持・充実

- ・鉄道駅を有する地域拠点において、生活利便施設や駅前の滞在空間、公共交通ネットワークなどと連携した拠点機能の維持・充実を図っていきます。

都市施設・市街地整備 | 交通体系 | 都市防災

● 生活拠点での生活機能の維持・充実

（暮らしやすさを維持するための予防的対応）

- ・一定の商業施設が立地・集積する生活拠点において、生活機能の充足状況を踏まえた、都市空間の質の向上や生活を支える機能の維持・充実を図っていきます。

都市施設・市街地整備 | 都市防災 | 居住環境

● 生活圏での暮らしの質の向上

- ・住まい近傍の生活圏において、地域主体による公園などの公共空間や空家・空き地などの既存ストックの有効活用、リモートワークや職住近接、ICT技術の活用など、新たなライフスタイルへの対応により、暮らしの質の向上を図っていきます。
- ・特に、人口減少や高齢化が進むエリアにおいて、地域における人のつながりやさまざまな活動団体の相互の結びつきを促すソーシャル・キャピタル（社会関係資本）の充実により、地域コミュニティの維持・充実を図っていきます。

土地利用 | 都市防災 | 居住環境 | みどり・都市環境 | 景観形成 | 共創のまちづくりの進め方



戦略2-2 交通ネットワークの充実・強化

● 拠点間を結ぶ主要ネットワークとなる道路整備の推進と渋滞解消

- ・（都）茨木寝屋川線・（都）駅前太中線など都市計画道路の整備や、市の中心部への交通流入抑制・機能分担などによる市内の交通渋滞対策を推進していきます。

都市施設・市街地整備 | 交通体系

● 公共交通の利便性向上と生活圏での移動の選択肢の充実

- ・公共交通の維持・利便性の向上や地域との協働による新しい交通手段の導入などによる移動の選択肢の充実を図っていきます。

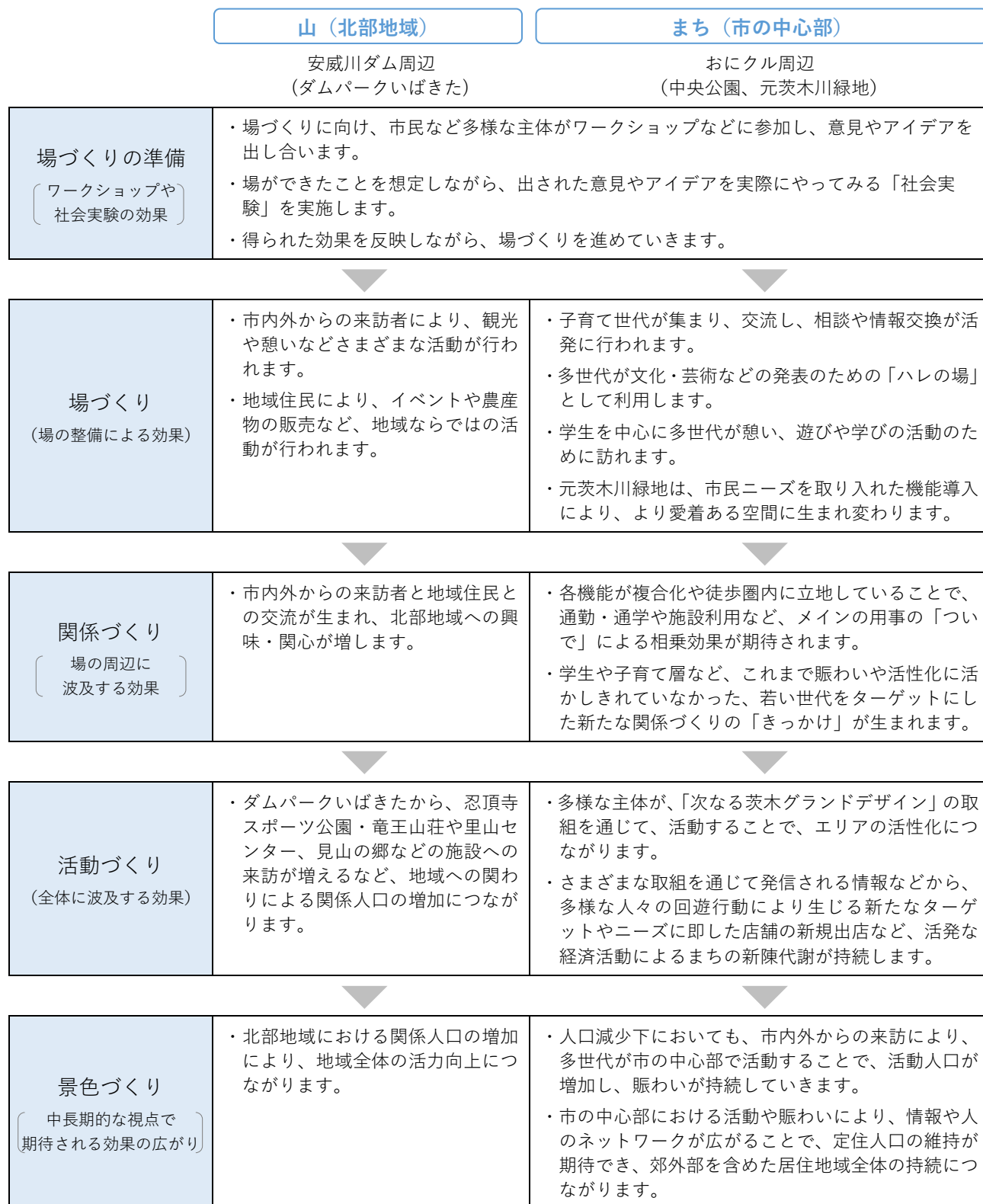
土地利用 | 交通体系

戦略3 魅力的な場と多様な活動により景色を創る

市民など多様な主体との活動のプロセスを重視しながら、「場づくり」「関係づくり」「活動づくり」のステップを進めることで、活動が日常的に行われる「景色づくり」へと広げ、市域全体につながりや賑わいを創出します。

共創のまちづくりの進め方

● 活動が景色となるまちづくりの進め方



戦略4 産官学民の多様な主体との連携によりまちを創る

これまでの都市づくりで創出された新たな魅力・強みである「事業者」「大学」と「市民」のそれぞれがもつ力を活かして、地域の魅力向上や課題解決につなげる「共創のまちづくり」を推進していきます。

共創のまちづくりの進め方

● 市民と共に創るまちの姿の実現に向けた各主体の役割

市民	・まちづくりへの理解 ・まちづくりへの積極的な参加 ・計画への意見・アイデア提案 ・地域課題の解決に向けた主体的取組 等
事業者	・まちづくりへの理解 ・事業活動を通じたまちづくりへの参加 ・ノウハウなどの活用による社会貢献・地域貢献 等
大学	・まちづくりへの理解 ・情報や人材の提供 ・まちづくりの調査・研究・助言 ・市民・事業者・行政をつなぐ中立的立場としての参加 ・大学生による地域での実践 等
行政	・市民への情報や機会の提供 ・まちづくり活動への支援 ・各主体の連携の支援 等

